



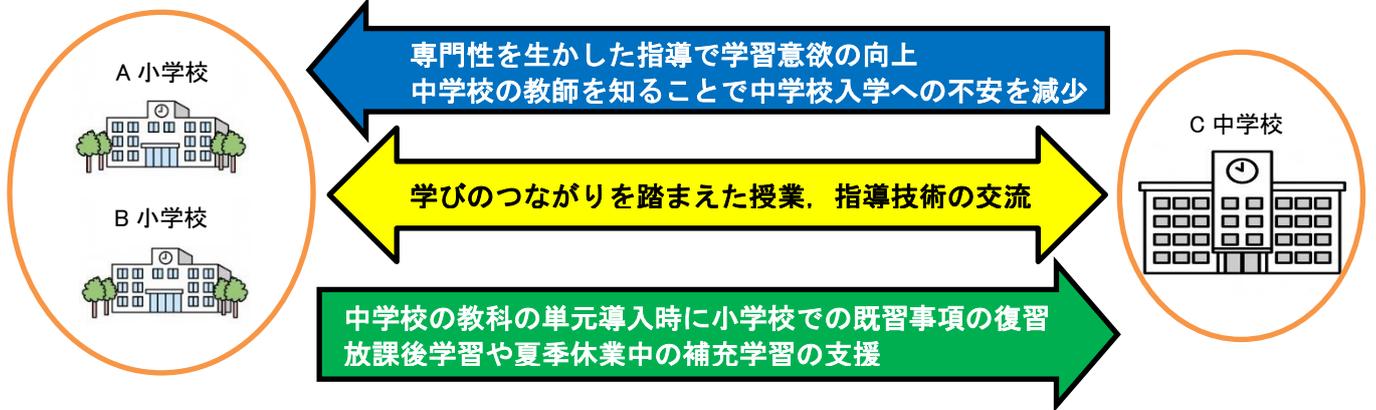
～「学び」「育ち」をつなぎ、自立して共に生きる子どもを育てる～

笠岡市教育委員会 一貫教育推進室

前回の「つなぐ」では、小中一貫教育によってどんな成果が期待できるのか、また、逆に課題としてはどんなことが挙げられるのかについて、実践校の報告をもとに紹介しました。今回は、「乗り入れ授業」ではどんな成果や課題があるのかを紹介したいと思います。

**Q 「乗り入れ授業」って何ですか。**

**A** 中学校の教員が小学校で授業を行ったり、小学校の教員が中学校で授業を行ったりして、子供たちの個に応じた学習指導や分かる授業を充実していきます。



**Q 乗り入れ授業のメリットは何ですか。**

- A** 小中一貫教育を実施している全国の公立小・中学校の実態調査から、大きな成果として以下のような内容が報告されています。
- ・中学校への進学に不安を覚える児童が減少した。
  - ・いわゆる「中1ギャップ」が緩和された。
  - ・小学校教員の間で基礎学力保障の必要性に対する意識が高まった。
  - ・小・中学校の教職員間で互いの良さを取り入れる意識が高まった。
  - ・小・中学校の教職員間で協力して指導に当たる意識が高まった。

**Q 乗り入れ授業の課題は何ですか。**

- A** 小中一貫教育を実施している全国の公立小・中学校の実態調査から、以下のような内容が挙げられています。
- ・小中の教職員間での打ち合わせ時間の確保
  - ・教職員間での負担の不均衡

**対応策として考えていること**



- ・小中一貫教育カリキュラムの指導計画の活用やリモートでの打ち合わせや会議の見直し（案件の精選）等により、打ち合わせ時間の確保につなげていきたいと考えています。
- ・一部の教員だけに負担がかからないように、加配教員の配置を図っていきたいと考えています。

## 神島外浦地区「保・小・中合同避難訓練」の開催

11月27日(金)、外浦保育所・神島外小学校・神島外中学校合同避難訓練が行われました。大規模地震と津波を想定しての訓練でした。緊急地震速報の報知音により、保育所・小学校・中学校でそれぞれ1次避難を行い、その後、保育所に集合しました。小学校の校長先生から、南海トラフ地震や津波が発生したらどんな被害が予測されるか、また、どうやって避難するのかについてお話がありました。今回は、裏山への防災道路が崩壊しているという想定で、第2次避難場所を小学校の2階に定め、中学生が保育所の子供たちとペアになって避難しました。車が通る側に中学生が立ち、保育所の子供たちの歩く速さに合わせて歩くなど、優しい気づかいが見られました。この避難訓練の数日前には、中学生の保育実習があり、保育所の子供たちは中学生に対して安心感をもって避難することができていたようです。



## 笠岡東中学校区小中一貫教育推進協議会の開催

12月8日(火)、笠岡東中学校において、笠岡東中学校区小中一貫教育推進協議会が開催されました。中学校区内の各校長・教頭・担当者、そして、小中一貫教育コーディネーターにより、笠岡東中学校区の小中一貫教育推進計画(令和3年度試行版)の検討が行われました。

笠岡東中学校区のグランドデザインにより、校区の教育目標、育成したい資質・能力、目指す学校像・児童生徒像・教師像、4領域「豊かな心・確かな学力・健やかな体・郷土愛」の重点施策・主な指導の実際についての検討が行われました。中学校区の子供たちの実態から、義務教育の9年間でこんな子供に育てたいという思いが込められた内容になっています。

協議会の中で、「令和3年度から、校区内の各学校の教職員一人一人がこの推進計画を実行していけるよう、これからの勝負だ」という意見が出て、先生方の覚悟が感じられました。

